

はじめに

NCC(日本キリスト教協議会)から
「天皇制の終焉を求めます」と声明が!!

聖書は、どう教えてる？

マタイ 56

「天皇制」を どう考える？



マタイ福音書22:15～22

皇帝への税をめぐる問答

Shikaoichurch.com

世の権威と神の権威

① 皇帝への税は？ 22:15～22

② 聖書の原則は？

③ 「天皇制」をどう考える？



神殿で最後の吟味を受けるメシア

- 過越の祭りで祭司のためにささげられる特別な子羊。
その**吟味の期間**、メシアは神殿で**最後の論争**を受ける。
- ニサンの月の10日に、エルサレム入城。
翌11日、宮きよめ。
- そして、12日、神殿での激しい論争が
パリサイ派、サドカイ派、律法学者、祭司たちと勃発!!

メシアの地上生涯最後の長い論争の一日の出来事



世の権威と神の権威 **①** 皇帝への税は？ マタイ22:15～22

ティベリウス橋

①皇帝への税 たくらみ 22:15

そのころ、パリサイ人たちは出て来て、
どのようにしてイエスを**ことばの罠**に
かけようかと相談した。

■パリサイ派は、イエスに罪を着せ、
捕らえてなきものにしようと。



①皇帝への税 罽 マタイ22:16

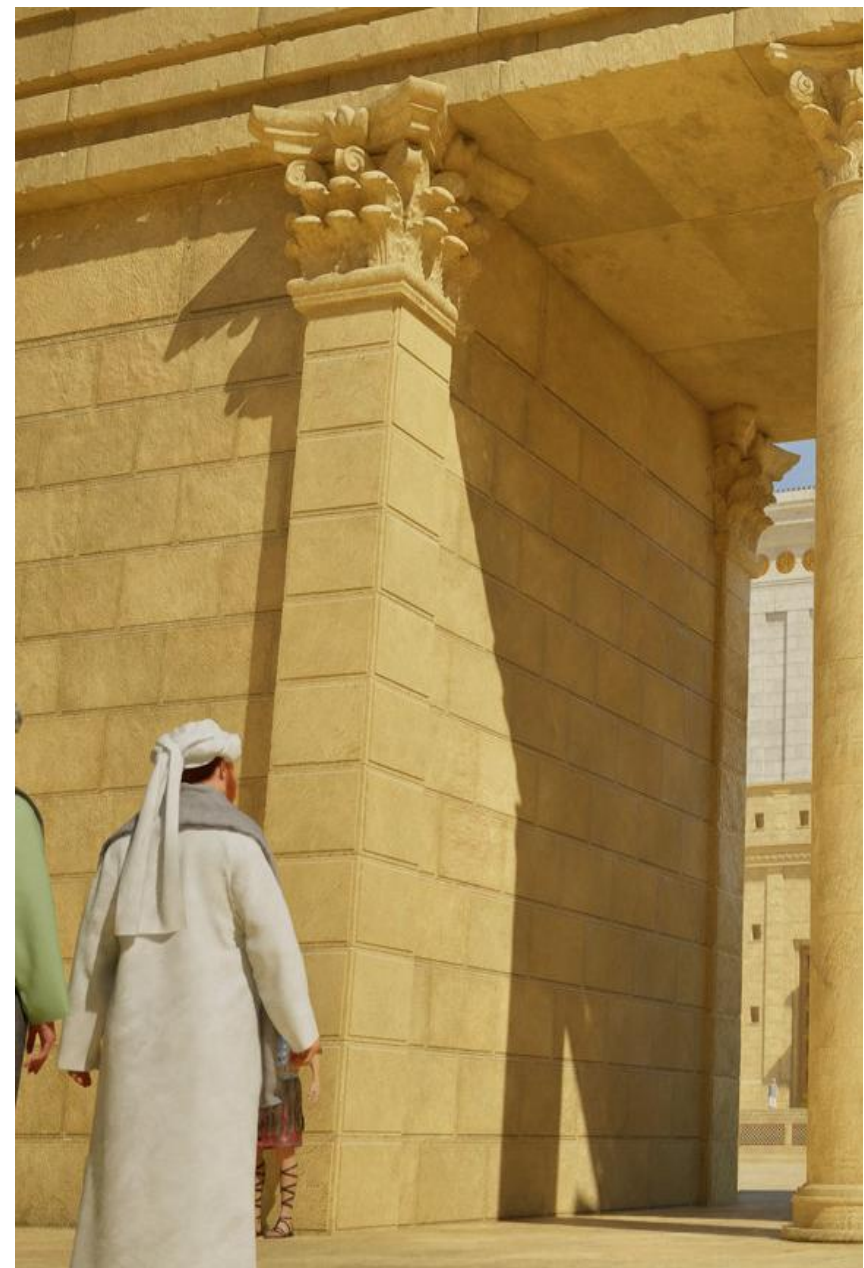
彼らは自分の弟子たちを、ヘロデ党*の者たちと一緒にイエスのもとに遣わして、こう言った。「先生。私たちは、あなたが真実な方で、真理に基づいて神の道を教え、だれにも遠慮しない方だと知っております*。あなたは人の顔色を見ないからです。」

*ヘロデ王朝を指示するユダヤ人団体

➡パリサイ派とは対立

*本当にこう信じているなら…。

➡まさしく偽善者!!



①皇帝への税 問い マタイ22:17

「ですから、どう思われるか、お聞かせください。**カエサル***に税金を納めることは律法にかなっているでしょうか、いないでしょうか*。」

*アウグストゥス以来のローマ皇帝の呼称

*支配者への納税は、律法には不記載。

体制派と反体制派で理解の相違が!!

■ 律法にかなう → 律法違反で捕らえる
かなわない → ローマ法違反で捕らえる



どっちを応えても
捕らえられる!!

①皇帝への税 デナリ銀貨 22:18～19

イエスは彼らの悪意を見抜いて言われた。
「なぜわたしを試すのですか、偽善者たち。
税として納めるお金を見せなさい。」そこで
彼らはデナリ銀貨*をイエスのもとに持って来た。

■ 表面 …ティベリウスの肖像
 “神聖アウグストゥスの子”

■ 裏面 …皇帝の母リウィアの肖像
 → 平和の神バックスと同一視



デナリ銀貨

①皇帝への税 イエスの質問 22:20～21

イエスは彼らに言われた。「これはだれの肖像と銘ですか。」

彼らは「カエサルのです」と言った。

■ 質問に答えず、質問で返す主イエス。
当然の返答が、イエスの結論の導入に。



①皇帝への税 結論 マタイ22:21～22

そのときイエスは言われた。

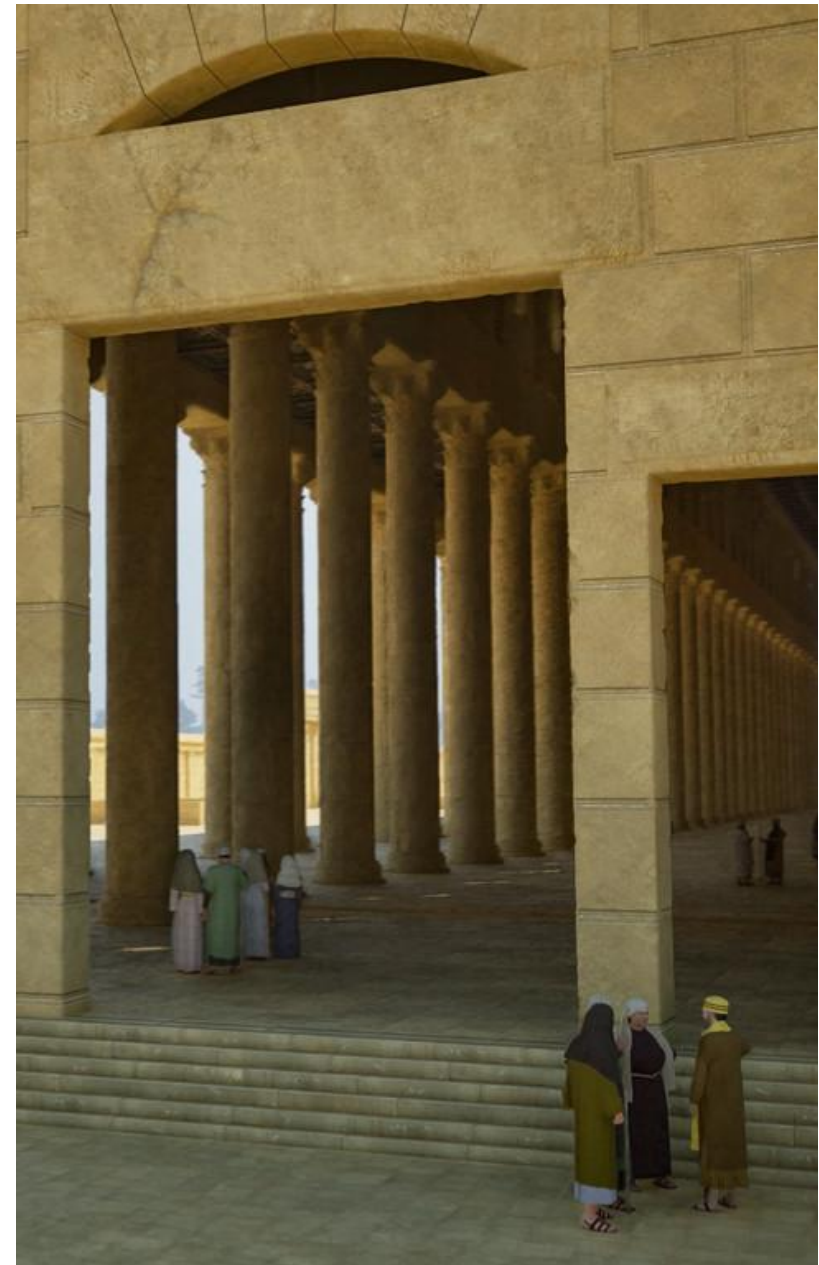
「それなら、カエサルのはカエサルに、
神のものは神に返しなさい。」

彼らはこれを聞いて驚嘆し、イエスを残して立ち去った。

■ ローマへの税は、ローマの貨幣で。

神殿への献金は、神殿の貨幣で納めた。

■ 現実としてあった実際の状況から、
霊的真理を導き出された、完璧な答え。





世の権威と神の権威

②聖書の原則は？

バビロン・イシュタル門

②聖書の原則 権威の源 ダニエル2:21

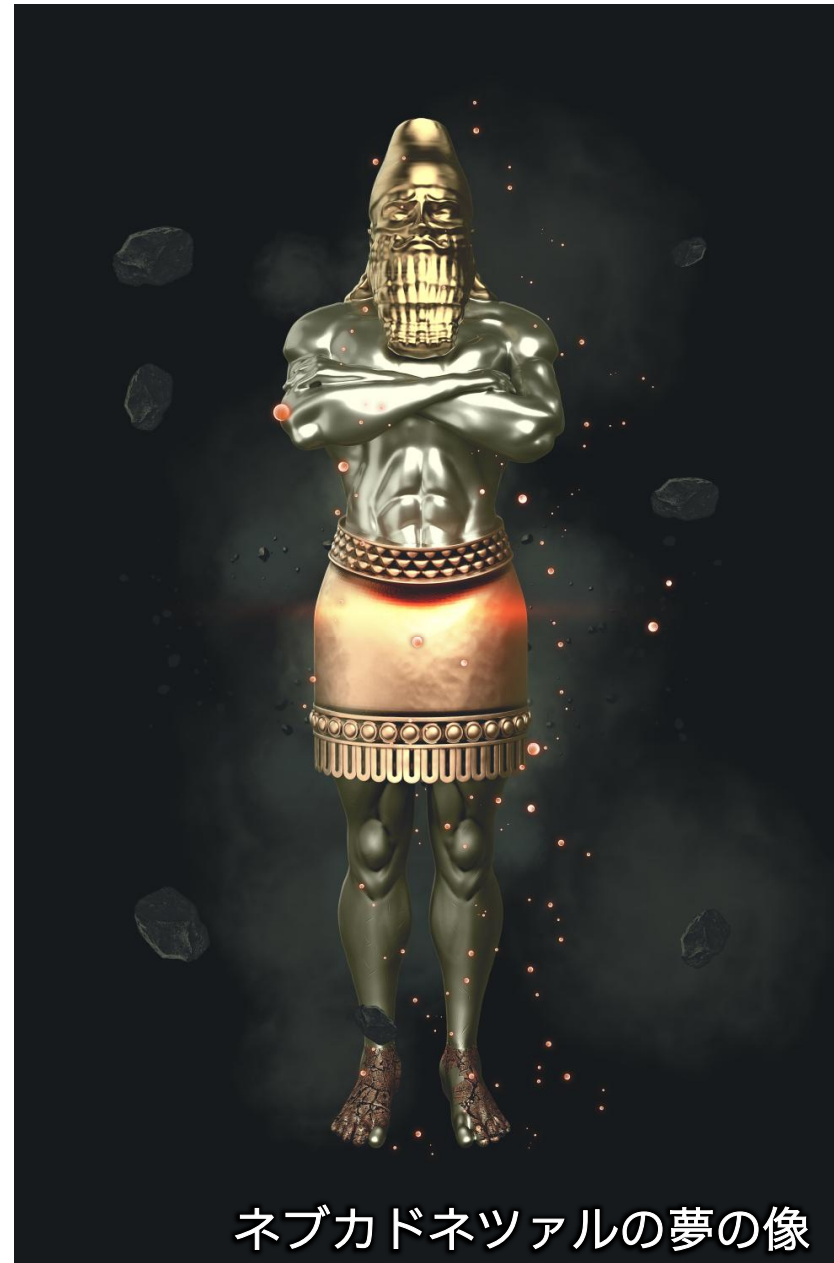
「**神**は季節と時を変え、**王を廃し、王を立てる**。知恵を授けて賢者とし、知識を授けて悟りのある者とされる。」

■ 神が、バビロンの王を裁きの器に用いた。

■ 地上の王を立てるのも廃するのも、神。

➡ 地上の権威の背後には神がおられる

「王の王である王よ。天の神はあなたに
国と権威と力と栄誉を授け、ダニ2:37」



ネブカドネツアルの夢の像

②聖書の原則 権威への従順 マタイ 8:9

「と申しますのは、私も**権威**の下にある者だからです。私自身の下にも兵士たちがいて、その一人に『行け』と言えば行きますし、別の者に『来い』と言えば来ます。また、しもべに『これをしろ』と言えば、そのようにします。」

■ イエスが称賛した百人隊長の信仰。

➡ **世の権威**に従順な百人隊長は、
神の権威への従順も際立っていた。



②聖書の原則 上に立つ権威 ロマ 13:1

人はみな、上に立つ**権威**に従うべきです。
神によらない**権威**はなく、存在している
権威はすべて、神によって立てられている
からです。

■ 異邦人の王も、すべての**権威**は、
神によって立てられている。

➡ 信仰者は率先して**権威**に従う



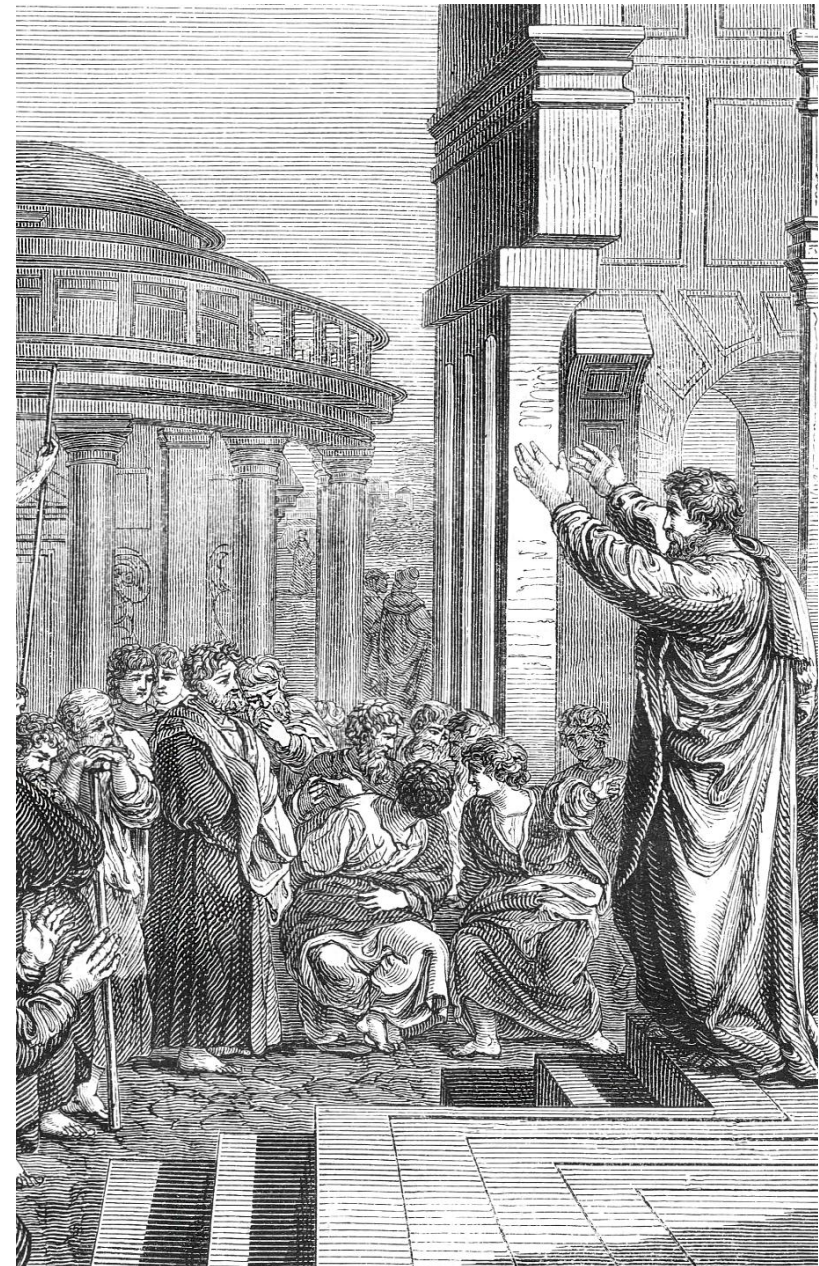
②聖書の原則

権威と義務 ロマ13:7

すべての人に対して**義務**を果たしなさい。
税金を納めるべき人には税金を納め、関税
を納めるべき人には関税を納め、恐れるべ
き人を恐れ、敬うべき人を敬いなさい。

■使徒パウロの教えは、主イエスと一致。

➡信仰者には、権威に従い、
義務を果たす責任が

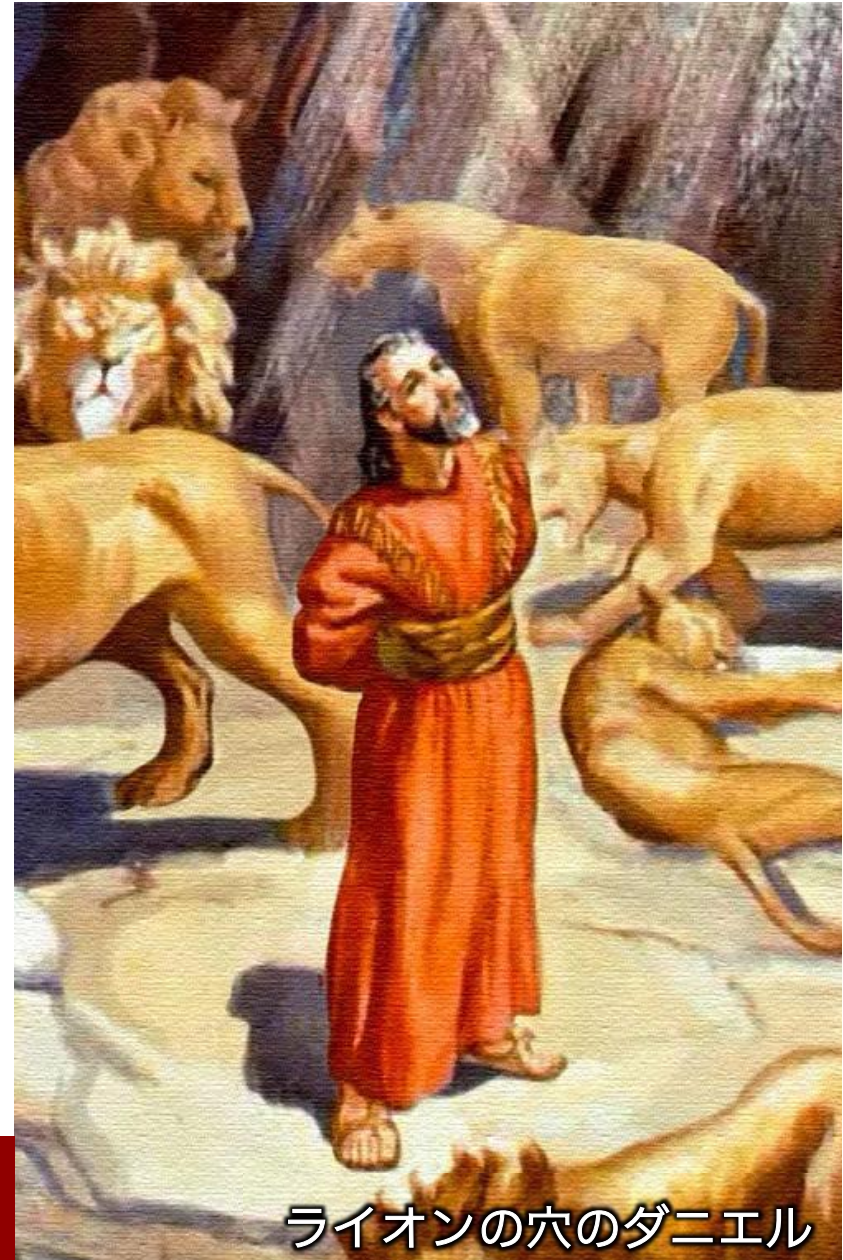


②聖書の原則 権威に対する例外 6:13

そこで、彼らは王に告げた。「王よ。ユダからの捕虜の一人ダニエルは、あなたと、ご署名になった禁令を無視して、日に三度、自分勝手な祈願をしています。」

- 王以外への祈願が禁じられたが、ダニエルは主への祈りをやめなかった。
- 王の像を拝むのを拒んだ三人の友人は、燃えさかる炉に投げ込まれた。

主を礼拝する。主以外は礼拝しない



ライオンの穴のダニエル

①地上の権威はすべて、主が立てられた。

②地上の権威を敬い、義務を果たす。

③主を礼拝する。主以外は礼拝しない。

例外：権威者を神とし、礼拝の対象とするのは罪。

礼拝を強要されない限り、権威を敬い、義務を果たす。



まとめと適用

③「天皇制」をどう考える？

①地上の権威はすべて、
主が立てられた。

カエサルのは
カエサルに

②地上の権威を敬い、
義務を果たす。

③主を礼拝する。
主以外は礼拝しない。

神のものは神に

まとめ

聖書における 世の権威

- イスラエルへの裁きの器・バビロン王ネブカドネツアル
(ローマ皇帝も同様)
- 偶像礼拝の異邦人の王も、神が立てられた地上の権威。
➡ 主に背けば、すべての罪人同様、神の裁きが
(ダニエル4:33)
- バビロン王も、ローマ皇帝も、神が立てられた権威。
➡ 敬い、従い、義務を果たすことが求められた。

- 天皇も、唯一の神が立てられた地上の権威。
現日本国憲法下の天皇は、「国民の統合の象徴」
- 日本のクリスチャンは、「国民の統合の象徴」である
天皇陛下を敬い、国への義務を果たす。

カエサル(天皇)のものは カエサル(天皇)に

適用

天皇制をどう考える？ 例外

■ 戦時下の大日本帝国。天皇は現人神に。宮城遥拝の強要。ホーリネスへの弾圧…王の王なる再臨の主が問題に!!

■ 戦後、昭和天皇の詔書 「人間宣言(1946,1,1)」
…“天皇を現御神(生まれながらの神)とし、優越する
日本民族が世界を支配すべきというのは架空の概念”
“天皇と国民は、相互の信頼と敬愛によって結ばれる”

神のものは神に

- ① 神が立てられた権威として天皇を敬う。
- ② 日本の法を守り、義務を果たす。
- ③ 天皇を神として礼拝することは、堅く拒む。
国民の統合の象徴としての現状維持を願おう。

カイサルのもものはカイサルに 神の者は神に

■ NCC(日本キリスト教協議会)の声明 2026,7,10

「戦争責任と戦後責任の告白に立ち、天皇制の終焉を求めます
—皇室典範改正法の衆議院通過にあたって—」

■ 聖書上の問題点は、神へのおそれがないこと

① 地上の権威を立てられた、主の権威へのおそれの欠如

② 地上の権威を敬う姿勢の欠如

③ 神を礼拝する(主の前にひれ伏す)姿勢の欠如

➡ 権威へのおそれがない者は、主を礼拝できない

最もおそろしいのは、地上の権威が否定された世界

- 異邦人の王・究極的な地上の権威が、反キリスト
→イスラエルに対する最後の裁きの器
- 反キリストにも、服従するしかない。(艱難期前半)
- 反キリストへの礼拝は、拒絶するしかない。(後半)
反キリストの信者にならない者には、大迫害が!!

■ 反キリストによる最終戦争。

残されたイスラエルの民族的回心。

栄光の主イエス・キリストの再臨。

■ 反キリストと、主に背いたすべての者は、裁かれる。

■ 王の王として、主イエスが永遠に世界を治められる。

信仰者は、栄光の体で、永遠に主イエスを礼拝する。

★ 地上の権威と神の権威 ★

■ 主が立てられた地上の権威を敬おう。

すべての権威の源である主をおそれよう。

■ 王の王なる主イエスを待ち望もう。

主の約束である御言葉への信頼を深めていこう。

■ 永遠の王国に、主はすべての人を招かれている。

主へのおそれをもって、福音を宣べ伝えよう。

「天のお父さま。私たちの罪をゆるしてください。

私たちは、神のみ子、主イエス・キリストが、

①私たちの罪を贖うために十字架で死なれ、

②墓に葬られ、

③三日目に復活されたこと、を信じます。

私たちは、地上のすべての権威の源である主をおそれます。

王の王として来られる、栄光の主イエスを待ち望みます。

主イエス・キリストの福音をもって、世に遣わしてください。

感謝して、主イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン」